

## 1. 会長、代議員、理事、監事、委員の交代

会長選挙、代議員選挙の結果に基づき会長、代議員が交代しています。理事、監事の任期が満了し、交代しました(一部理事は留任)。各種委員も一部交代しています。理事、監事、委員は新会長の推薦に基づき代議員総会で承認されました。

### ➤ [小泉 望 \(大阪府立大学\)新会長挨拶](#)



この度、日本植物バイオテクノロジー学会長を務めさせて頂くことになりました。2年間よろしくお願いします。本学会は名称の変遷はありましたが2021年に設立40周年を迎えます。設立から30年間の詳細は学会HPで見ることができます。ここでは最近の10年ほどを振り返るとともに2年間の目標を述べます。

まず、学会の体制についてです。編集委員会は以前よりありましたが、30周年の際の提言をもとに幹事(現理事)を委員長とする広報、産学官連携、国際化、キャリア支援・男女共同参画に関する委員会が作られました。この体制を維持しつつ、なるべく多くの会員に運営に携わって頂くため委員の入れ替えを行います。学会(当時は、日本植物細胞分子生物学会)は2016年に一般社団法人化されました。2020年には学会名改称とともにHPが刷新されました。会報もメールベースとなり、学会誌の完全オンラインジャーナル化などもあり学会の財務状況は良くなっています。こうした改革をしっかりと軌道に乗せていきます。

学会誌 Plant Biotechnology については、2011年にインパクトファクター(IF)がつき、2019年にPubMed登録、2020年に完全オンラインジャーナル化と大きな変革が続きました。IFにこだわる必要はありませんが、これまで以上に良い雑誌になるように、会員の皆様には積極的な論文の投稿と非会員への学会誌のご紹介を是非お願いします。

大会のあり方ですが、30周年を機にポスターセッションが行われるようになりました。ここ数年は、キャリア支援・男女共同参画、産学官連携委員会によるシンポジウムやランチョンセミナーがほぼ全ての大会で実施されています。女性座長の割合が考慮され託児所も設置されています。実行委員長と相談しながら大会の充実を図ります。2020年のつくば大会はCOVID-19のため延期となり、来年度以降についても先行きが見えない状況です。完全オンライン化を含めた大会のあり方についても早々に議論を始めます。

国際化に関しては2016年より、それまでほぼ毎年行っていた日韓シンポジウムに代わって日韓中の三カ国シンポジウムが始まりました。2020年はCOVID-19の影響で延期となりましたが、今後については立ち止まって考えることも必要です。また、主に留学生の発表の機会のために2017

年から大会時に英語セッションが設けられました。英語での発表に挑戦する日本人学生の増加にも期待し、英語セッションを継続します。

学会の大切な役割は学会誌と大会による研究の活性化です。加えて、ゲノム編集に代表される植物バイオテクノロジーに関する社会との対話も重要です。社会の理解が進めば産業界からの参入が期待でき、関連産業の増加はキャリア支援につながります。市民公開講座をほぼ毎年開催していますが、他にも出来ることはあると思います。

学会名改称、HPの刷新により学会の看板は新しくなりました。次は中身です。会員は減少し、高齢化が進んでいます。学会の将来を考えると、中堅、若手のより多くの学会員に運営に関与してもらうことが大切です。また、この機会を新しい会員の入会につなげることが必須です。非学会員をシンポジウムに招いて本学会の魅力を知ってもらうことなどは方策の一つでしょう。設立40周年記念市民公開講座を学会のアピールの一環として実施します。40周年記念冊子も作成し学会の宣伝に使います。入会者の増加については理事会を中心に議論していきますが、会員の皆様のご協力が欠かせません。

理事、監事、代議員、各種委員の方々のご協力、ご指導を頂きながら学会の運営、発展に微力ながら尽力いたします。会員の皆様からもご支援を賜りますようお願い致します。

2020年9月 小泉 望

➤ [山川 隆\(東京大学\)前会長退任挨拶](#)

退任にあたり会員の皆様にご挨拶申し上げます。

2018/19年度の執行部は、本学会の使命である国内の植物バイオテクノロジーの拠点として学術研究の発展・普及・社会還元の活動を行うとともに、財政改革をはじめ、学会名を日本植物バイオテクノロジー学会に変更する等、学会組織として大きな取組みをかかげてスタートしました。そして Plant Biotechnology 誌の完全オンライン配信化、学会運営の効率化などによる財政改革、学会名の変更、学会ホームページの刷新を行ない、ホームページはスマートフォンにも対応できるようにしました。これらの改革は任期の2年間をかけておこないましたが、これらは会員の皆様のご理解とご支援により成し遂げることができたもので、執行部を代表して皆様に御礼申し上げます。

また、これまで歴代の執行部の尽力が功を奏して、Plant Biotechnology 誌では昨年夏から Pub-Med で掲載論文が検索できるようになり、国際的にはますます認知と評価がすすんでいくと考えられます。これらの改革により、本学会の特徴を社会に分かりやすく示して、植物バイオテクノロジー分野の最新の研究を、研究者・技術者そして社会に発信していけるようになりました。しかし本年、この新しくなった学会をこれから社会に知っていただくときに、新型コロナウイルス感染症の拡大で、学会の大会を来年に延期する決定をしなければならなかったことはまことに残念でなりません。感染症の一刻も早い収束を願うばかりです。

最後になりましたが、任期中これらの改革で盛り沢山の仕事をこなして学会運営を支えてくれた吉田幹事長、光田会計幹事、青木編集委員長ほか経験豊かな理事の方々に御礼申し上げます。

今後は小泉新会長の率いる執行部のもと、ゲノム編集等をはじめとするNPBTの大きな展開のなかで、学会発足40年を迎える本学会がますます発展していくことを祈念いたします。

2020年9月 山川 隆

➤ 新理事、監事(理事9名 うち女性2名(22%)、監事2名)

会長:	小泉 望 (大阪府大)
幹事長:	光田 展隆 (産総研)
編集委員長:	青木 考 (大阪府大)
会計理事:	有泉 亨 (筑波大)
理事(広報担当):	児玉 豊 (宇都宮大)
理事(国際化担当):	山崎 真巳 (千葉大)
理事(キャリア支援・男女共同参画担当):	柳川 由紀 (農研機構)
理事(産学官連携担当):	加藤 晃 (奈良先端大)
理事(40周年記念担当):	増村 威宏 (京都府大)
監事:	矢崎 一史 (京大)
	吉田 薫 (東大)

➤ 新各種委員会委員(下線は委員長)

(編集30名+他14名 うち女性編集8名+他5名(30%))

- ・編集委員会: 青木 考, 有村 慎一, 飯島 陽子, 伊藤 瑛海, 伊藤 幸博, 加星 光子, 小山 時隆, 河内 宏, 肥塚 崇男, 小林 俊弘, 佐藤 長緒, 鈴木 馨, 高橋 征司, 千葉 由佳子, 永野 幸生, 檜本 悟史, 野中 聡子, 早間 良輔, 平野 智也, 星野 洋一郎, 水谷 正治, 三柴 啓一郎, 矢野 健太郎, 山口 夕, 吉本 尚子, Gyung-Tae Kim, Anne B. Britt, Rishikesh P. Bhalerao, Joanna Putterill, Brian Jones
- ・広報委員会: 児玉 豊, 山崎 真巳, 岩瀬 哲
- ・国際化委員会: 山崎 真巳, 大西 利幸, 村中 俊哉
- ・キャリア支援・男女共同参画委員会: 柳川 由紀, 榎原 圭子, 伊福 健太郎, 藤原 すみれ
- ・産学官連携委員会: 加藤 晃, 小鞠 敏彦, 遠藤 真咲
- ・40周年記念事業委員会: 増村 威宏, 武田 征士

➤ 新代議員(42名 うち女性9名(21%))

明石 欣也(鳥取大学)	梅田 正明(奈良先端科学技術大学院大学)
有村 慎一(東京大学)	江面 浩(筑波大学)
伊福 健太郎(京都大学)	遠藤 真咲(農研機構)
梅澤 俊明(京都大学)	大坪 憲弘(京都府立大学)

大西 利幸(静岡大学)	土岐 精一(農研機構)
岡澤 敦司(大阪府立大学)	中野 雄司(京都大学)
川合 真紀(埼玉大学)	中山 亨(東北大学)
草野 都(筑波大学)	西原 昌宏(岩手生物工学研究センター)
齊藤 和季(理化学研究所)	橋本 隆(奈良先端科学技術大学院大学)
榊原 圭子(理化学研究所)	平井 優美(理化学研究所)
土反 伸和(神戸薬科大学)	藤原 すみれ(産業技術総合研究所)
庄司 翼(理化学研究所)	水谷 正治(神戸大学)
杉山 暁史(京都大学)	三浦 謙治(筑波大学)
關 光(大阪大学)	溝口 剛(国際基督教大学)
関 原明(理化学研究所)	村中 俊哉(大阪大学)
高木 優(埼玉大学)	本橋 令子(静岡大学)
高橋 征司(東北大学)	矢崎 一史(京都大学)
田口 悟朗(信州大学)	矢野 健太郎(明治大学)
田中 良和(サントリー)	山川 隆(東京大学)
田部井 豊(農研機構)	吉田 薫(東京大学)
出村 拓(奈良先端科学技術大学院大学)	吉松 嘉代(医薬基盤・健康・栄養研究所)

## 2. 2020 年度代議員総会報告

2020 年 9 月 10 日にオンラインで開催(会長、幹事長、会計は国際文献社に集合)された 2020 年度代議員総会において以下の内容(抜粋)が承認/決定されました。

### 2-1. 2019 年事業報告

2019 年度は下記のような事業を実施しました。

- (1) 学会誌の完全オンラインジャーナル化および会報の印刷停止、メール配信化
- (2) 学会ホームページの全面改訂
- (3) 学会誌の発行

Plant Biotechnology Vol. 36 No. 3 から Vol. 37 No. 2 まで 4 冊を刊行

- (4) 大会および市民公開シンポジウムの開催

・第 37 回日本植物細胞分子生物学会(京都)大会(2019 年 9 月 7~8 日, 京都府立大学 稲盛記念会館)を開催した。

・市民公開シンポジウム「すごいぞ! 植物バイオ研究の最先端」(2019 年 9 月 14 日, 京都府立京都学・歴彩館)を開催した。

- (5) [2019 年度学会賞](#)の授与

・学術賞を以下の 2 名に授与した。

中山亨 (東北大学)「フラボノイド生合成:新規経路・特異性の開拓とダイナミクス」

村中俊哉(大阪大学)「植物テルペノイド代謝多様性の分子基盤と代謝工学」

・奨励賞を以下の 3 名に授与した。

石川寿樹(埼玉大学)「植物固有なスフィンゴ脂質機能の解明と代謝改変研究」

沼田圭司(理化学研究所)「ペプチド法:融合ペプチドを利用した植物改変技術の開発」

東泰弘(理化学研究所)「環境ストレス応答を中心とした植物代謝オミクスと遺伝子資源応用」

・学生奨励賞を以下の 1 名に授与した。

飯島未宇(富山大学)「エゾムラサキツツジが生産する抗 HIV 天然物ダウリクロメン酸の合成研究」

・論文賞を以下の 1 件に授与した(\*は責任著者)。

Shotaro Yamasaki, Atsunobu Suzuki, Yasuaki Yamano, Harunori Kawabe, Daishin Ueno, Taku Demura, \*Ko Kato (2018) Identification of 5' -untranslated regions that function as effective translational enhancers in monocotyledonous plant cells using a novel method of genome-wide analysis. Plant Biotechnology 35(4): 365-373.

(6) [2020 年度学会賞の決定](#) (後述)

(7) 厚労省および農水省パブコメへの対応 (詳細はクリックして学会 HP をご参照ください)

・[厚労省による「ゲノム編集技術応用食品等の食品衛生上の取扱要領\(案\)」に関する意見募集について意見を提出](#)

・[農水省による「農林水産分野におけるゲノム編集技術の利用により得られた生物の情報提供等に関する具体的な手続について\(骨子\)\(案\)」に対する意見募集について意見を提出](#)

(8) 代議員総会および理事会等の開催

第 2 回理事会(2019 年 11 月 30 日)では大会発表カテゴリーの見直しについて協議した。

【旧カテゴリー】

一次代謝、二次代謝、有用物質生産、遺伝子解析、発生分化・形態形成

植物-微生物相互作用、環境応答・環境修復、細胞・組織培養

遺伝子組換え植物、成長制御、オミクス解析、その他

【新カテゴリー】

一次代謝、二次代謝、有用物質生産、遺伝子**発現**、発生分化・形態形成

**生物間**相互作用、環境応答、細胞・組織培養

遺伝子組換え・**ゲノム編集**、**ホルモン・シグナル伝達**、**バイオマス**、

**新技術開発**、**バイオインフォマティクス**、その他

(9) 編集委員会(委員長 青木考)

・Plant Biotechnology 誌特集号「[Technology in Tissue Culture Toward Horizon of Plant Biotechnology](#)」(37 巻 2 号)を刊行。

・Plant Biotechnology 誌特集号「Approaches for Strategies of Mechanical Optimization in Plants」原稿依頼を開始。本特集号は 37 巻 4 号として発行予定。

(10) 広報委員会(委員長 山崎真巳)

市民公開シンポジウム「[つくば発！植物バイオテックの産学連携最前線](#)」(2020年9月13日、筑波大学 春日講堂)を企画し、科研費補助金研究成果公開促進費に申請、採択された(50万円)。なお本シンポジウムは2021年3月29日に延期されています。

(11) 国際化委員会(委員長 大西利幸)

日中韓3か国シンポジウム(つくば大会)の企画や大会参加申し込み英語ページの見直しなどを行った

(12) キャリア支援・男女共同参画委員会(委員長 榊原圭子)

ランチョンセミナー「海外研究生活から考えるキャリア形成とライフイベント」(2019年9月7日(土)、京都府立大学 稲盛記念会館)を開催したほかランチョンセミナー「博士人材が活躍する多様なキャリアパス」(つくば大会)の企画を行った

(13) 産学官連携委員会(委員長 小鞠敏彦)

シンポジウム「キラリと光る事業を目指してー日本発の植物バイオ最前線ー」(2019年9月7日(土)、京都府立大学 稲盛記念会館)を開催したほかシンポジウム「食の未来を拓く先端技術」(つくば大会)の企画を行った

## 2-2. 2019年決算報告

2019年度は京都大会が若干の黒字になったことや学会誌のオンライン化などの経費節減施策により、過去数年に比べて経常損益が大きく改善し、若干(約12万円)の赤字決算となった。今後の収支均衡の見通しが立ったと言える。

## 2-3. [編集委員会規程](#)の創設

編集委員の任期を明確化した。

## 2-4. [選挙規程](#)の改訂

会長候補者被選挙権を代議員だけでなく、理事にも付与した。

## 2-5. [学会賞選考規程](#)の改訂

技術賞の受賞対象を「実用化された、または実用化間近の顕著な研究成果」から「実用化された研究成果、または実用化につながる顕著な技術開発」と変更した。

## 2-6. [広告掲載規程](#)の改訂

学会誌の広告に関する事項を削除し、ホームページバナー広告の料金を明確化した(下記)。

区分	掲載場所	バナーサイズ	期間	掲載料
バナー広告	学会 HP トップページ	横 200 x 縦 60 pixel	1か月	7,500円
同上	同上	同上	3か月	15,000円

同上	同上	同上	1年	50,000円
----	----	----	----	---------

## 2-7. 2020年事業計画

### (1) 大会および市民公開シンポジウム

第38回日本植物バイオテクノロジー学会(つくば)大会(大会実行委員長:江面 浩(筑波大学))の企画や市民公開シンポジウムの企画を行う。つくば大会にてシンポジウム「食の未来を拓く先端技術」の企画を行う。

### (2) 40周年記念事業

・市民公開シンポジウム(学会員も対象)を2021年7月11日に東大一条ホール+オンラインで開催する。内容は下記の通り。※主に広報委員会が担当

- 学会の軌跡(仮題) 山川(東京大)
- 物質生産と二次代謝(仮題) 矢崎(京都大)
- イネの形質転換系(仮題) 鳥山(東北大)
- 青いバラの開発(仮題) 田中(サントリー)
- インターベリーの開発(仮題) 田林(ホクサン)
- ジャガイモの毒を減らす(仮題) 村中(大阪大)
- GABA トマトの開発(仮題) 江面(筑波大)

・記念冊子を作成する(過去10年を中心に学会の歩みと植物バイオテクノロジーを取り巻く状況の変化について)。2021年のつくば大会で配布を予定。※主に40周年記念事業委員会が担当

・プロトコル集(WEBベース)の完成 ※新たにWGを立ち上げて担当

・グッズ(クリアファイル)の作成(予算次第)。2021年のつくば大会で配布予定。※主に40周年記念事業委員会が担当

### (3) 市民公開シンポジウム「[つくば発!植物バイオテックの産学連携最前線](#)」

日程: 2021年3月29日(開始時間未定)

会場: 筑波大学(オンラインでの開催の可能性もある)

### (4) 国立科学博物館主催の「植物展」への協力

会期: 2021年7~9月(予定)

主催: 国立科学博物館、NHK、NHKプロモーション

協力学術団体: 日本植物学会、日本植物生理学会、日本植物バイオテクノロジー学会

## 2-8. 2020年予算

つくば大会が新型コロナウイルス流行の影響により延期されたことで学生会員の入会がほとんどなく、会費収入が大幅減(約50万円)となる予定。また、大会が延期されたにも関わらずすでに準備した分について経費が発生している(約85万円)。さらにホームページリニューアルの支払い(約200万円)がある。このようなことから大幅な赤字(約330万円)となることは避けられな

いが、支払う大会経費のうち約 50 万円分は来年分の前払い的な性格があると考えられるほか、ホームページリニューアル経費は特定事業積立金から支払うべきものであることを考えると、経常収支が赤字基調になっているわけではない。

### 3. 2020 年度学会賞紹介

2020 年度学会賞受賞者は下記のように決定しました。[学会ホームページ](#)に会員限定コンテンツとして要旨を掲載しています。要旨のパスワードは「jspb2020」です。ぜひご覧ください。なお、受賞者によるビデオ講演等は行わず、来年のつくば大会で 2 年分の受賞講演を開催する方向で検討しています。

名称	受賞者	所属	タイトル
学術賞	鳥山 欽哉	東北大学	「 <a href="#">イネの細胞質雄性不稔性と稔性回復の分子基盤研究</a> 」
技術賞	三浦 謙治 <sup>1</sup> 、 星川 健 <sup>2</sup> 、 江面 浩 <sup>1</sup>	<sup>1</sup> 筑波大学、 <sup>2</sup> 国際農林水産 業研究センター	「 <a href="#">植物における一過的タンパク質大量発現システムの確立</a> 」
奨励賞	中林 亮	理化学研究所	「 <a href="#">未同定代謝物の探索にむけた複合的メタボロミクス手法の開発</a> 」
	前川 修吾	立教大学	「 <a href="#">植物のストレス応答機構に関する分子生物学的研究</a> 」
学生 奨励賞	秋山 遼太	神戸大学	「 <a href="#">ステロイドグリコアルカロイド生合成機構の解明</a> 」
	鈴木 隼人	大阪大学	「 <a href="#">ミヤコグサのトリテルペノイド生合成に関する研究</a> 」

### 4. 2021 年度学会賞推薦のお願い

2021 年度の学会賞の推薦をお願い致します。候補者の推薦は、電子メールで幹事長(光田展隆)宛(nobutaka.mitsuda@aist.go.jp)にお送り下さい。件名を「JSPB 学会賞推薦」とし、本文に賞の名称(種類)、候補者の氏名、所属、連絡先住所、電話番号、電子メールアドレス、研究題目(仮)および簡単な研究内容をご記入下さい。推薦は書面(郵送)でも受け付けます。その際は封筒に推薦書が同封されている旨を記載の上、上記の情報を同封ください。推薦にあたっては候補者の内諾を取って下さい。受け付けた場合はメールにて必ず受け付けたことを連絡しますので連絡がない場合は再送ください。推薦の受付は 12 月末日までと致します。多くのご推薦をお待ちしております。

学会賞について;

名称	受賞者の資格	受賞の対象	推薦者	受賞件数
学術賞	一般会員	優れた研究業績に対して	会員	2名程度
特別賞	会員(連名の場合 は5名程度まで)	社会的影響の強い、特に優れた研究成果や活動に対して	会長、 幹事長、 評議員	随時(該当者がある場合)

技術賞	会員（連名の場合 は5名程度まで）	実用化された、または実用化間近 の顕著な研究成果に対して	会長、 幹事長、 評議員	2件程度
奨励賞	当該受賞年の3月 31日の時点で40歳 以下の一般会員	優れた業績を有し、将来さらなる活 躍が期待される若手の研究者に対 して	会員	若干名
学生奨励賞	学生会員	優れた研究を遂行し、将来の活躍 が期される学生会員に対して	会員	若干名

※学術賞、特別賞、技術賞については、学会への貢献に関する要件についても学会ホームペー  
ジの[学会賞選考規程](#)をご確認ください。

#### 5. Plant Biotechnology Vol.37 No.3 発行のご案内

20 編の論文を掲載しています。[学会誌ホームページ](#)をご覧ください。

#### 6. 2021 年度第 38 回大会のご案内

第 38 回日本植物バイオテクノロジー学会大会は以下のように開催されます。ご予約の確保をお  
願いします。より詳しい内容は会報 12 月号に掲載予定です。

会期：2021 年 9 月 11 日～12 日（代議員総会：9 月 10 日）（予定）

会場：筑波大学 春日キャンパス（予定）

大会実行委員長：江面 浩（筑波大学）

#### 7. 2022 年度第 39 回大会のご案内

第 39 回日本植物バイオテクノロジー学会大会は、小泉望氏（大阪公立大学（仮））を大会実行委  
員長として、大阪公立大学（仮）で開催することになりました。詳細は後日ご案内します。

#### 8. 会費納入のお願い

会計年度は 7 月 1 日～6 月 30 日となっております。本学会の会費は、一般会員 6,000 円、学生  
会員 4,500 円、特別賛助会員一口 50,000 円、賛助会員一口 15,000 円で前納制となっております。  
2020 年度（2020 年 7 月～2021 年 6 月分）の会費請求書を 6 月 21 日にお送りしておりますので、  
未納の方は早急にお振込みをお願いします。なお、会費を 2 年以上滞納した方は退会とみなし、  
会員名簿から削除いたします。また、会費を納入されない場合は会報の送信を中止いたしますの  
でご注意ください。

#### 9. 新規入会者数（2020.6.11～2020.9.25）

5 名の一般会員および 1 社の賛助会員の入会がありました。